

南砺市国土強靱化地域計画検討委員会

第2回 委員会 議事要旨

【日時】令和2年10月19日(月)14時00分～

【場所】南砺市役所 別館3階 大ホール

議事(1) 第1回委員会におけるご意見とその対応について

(説明資料①、別冊資料①)

- 委員長 : この説明資料①について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。
- A委員 : 新しく事前に備えるべき目標・リスクシナリオの10番を追加する考えは宜しいと思う。ただし、「しなやかな」「魅力ある地域づくり」というのは地域づくり協議会としては気になるポイントである。災害に強い地域を作っていくということは、ハードは専門家にお任せするとして、災害発生時に本当に助け合える地域を作れるかが課題である。日頃から我々は避難訓練等をしているが、避難したときの新たなコミュニティのあり方とか、今後検討していくべきことは多数存在していると思われる。新たな事前に備えるべき目標・リスクシナリオに対する対策方針の3つ(住環境分野、産業分野、太平洋側のリダンダンシーの確保分野)だけでは不足していると思われる。どのような地域を作れば本当に災害に強い地域となるのかの視点を加えて検討し、ソフト対策を含め、同目標の4番目以降で必要事項を整理してほしい。
- 事務局 : 10番目の事前に備えるべき目標・リスクシナリオにおいては、直接死を防ぐための情報伝達や防災訓練等が該当しており、これらも含めて検討していくものとする。
- 委員長 : 次の協議事項(2)「脆弱性評価と推進方針、施策の重点化(案)」において、災害に強いまちづくりはオーバーラップしてくるところもあると思われる。今ご指摘いただいた点は重要なポイントであり、他のリスクシナリオにおける推進方針と重複しても構わないので、10番目の事前に備えるべき目標・リスクシナリオについて詰めておいて頂きたい。
- B委員 : 10番目の「災害に強く・しなやかな地域形状と未来に希望がもてる魅力ある地域づくり」は、日頃から災害への意識づけが大切だと思われるが、災害に強くなるということは、自助が大事なのはもちろんのこと、共助も大事である。富山県は大きな災害に数多く見舞われていないため、特に南砺市は共助の意識が大きい(やや足りない)と思われることから、小学生の頃から意識させていくこと、つまり意識革命が重要ではないか。
- 事務局 : ご意見を踏まえて、今後、盛り込む施策等を検討していくものとする。
- 委員長 : 災害に対する認識、意識醸成の重要性、意識改革について説明してもらえればわかりやすくなると思われる。
- 事務局 : 防災意識の観点につきましては、従来より、地域づくり協議会さんのみな

さまとも議論をしており、南砺市では、情報伝達や情報収集のための防災アプリを導入した。各地区の訓練についても（防災アプリを通して）案内していきたい。アプリのインストール件数などの数値化も進めていく。

- C委員 : リスクシナリオ8-3において「広域地盤沈下等による」を消した方が良くないか。液状化しやすきマップを見ると、リスクは小さいと思われるため、特出ししない方がよくないか。
- 事務局 : 一部の河川に低レベルのリスクしかない状態であり、再度検討する。

議事（2） 脆弱性評価と推進方針、施策の重点化（案）について

（説明資料②、別冊資料②）

- 委員長 : 事務局から、説明資料②の脆弱性評価と推進方針、施策の重点化（案）について、整理・説明いただいた。1つ1つの項目に非常に大きな意味があり、6頁以降の青色の部分は重点化項目となっている。これらを踏まえ、いますぐに意見を頂くのは困難と思われることから、お気づきの点等について個別にご意見を頂き、事務局の方で検討いただくこととしたい。宜しくをお願いします。
- A委員 : 事前に備えるべき目標1つめの「直接死を最大限に防ぐ」は国が言っているものだが、東日本大震災では災害においては劣悪な避難生活環境等を背景とする関連死が多く挙げられていた。この関連死については(10/16)「リスクシナリオ2-7：劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理による多数の被災者の健康状態の悪化・死者の発生」において出てくるが、関連死に関することは少ないことが気になる。
- 事務局 : また、説明資料②の8ページ目(8/16)、リスクシナリオ1-5の対応方策(推進方針)の中にある(6)リスクコミュニケーション分野において、「自主防災組織の結成促進」とあるが、自主防災組織は31地区の全地区において結成済であるため、組織強化の方が正しいのではないか。
- 事務局 : 自主防災組織化100%ではないため、このような表記とした。
- 委員長 : 自主防災組織が100%でないことは理解したが、多くの地区では強化という表現が望ましいのではないか。
- 事務局 : 関連死の表記については工夫したいと思います。
- D委員 : 東日本大震災のときの死者数は、直接死よりも、関連死の方が2倍強と多かったと記憶している。個人的に、関連死に注目すべきと思われる。
- 事務局 : 事前に備えるべき目標の10番目にも繋がると思うが、コミュニティーやつながりの部分は、一流の田舎だからこそできることを示すことも重要である。それも南砺市らしさではないか。
- 事務局 : ご指摘のあった脆弱性の部分や推進方針の部分において、現在取り組んでいることも検証し、検討・補足した上で、南砺市らしさを表現したいと考えている。
- B委員 : 10/16ページのリスクシナリオ2-5の(3)保健医療・福祉分野の推

進方針において、ドクターヘリによる救命率の向上の記載があるが、南砺市にはドクターカーもあるため、出動回数等を検証した上で、南砺市らしさの一環として掲載してはどうか。

- 事務局 : ドクターヘリは夜間飛行不可であり、ドクターカーの存在は知っていたが、本資料には盛り込めなかったから、今後整理する。
- C委員 : 本資料は各部局の方の意見を踏まえて整理されたものと思われるが、この後はK P I（重要業績指標）を出して、P D C Aサイクルで回していくことになるため、定性的な指標では後々困ることになる。語尾が「推進する」「充実を図る」と表現されているが、具体的な現在の数値を把握し、今後どのくらいまで伸ばすのかを付けた方がよい。など、定量的に整理した方がよいと思われる。
- 外国人の安否確認や避難誘導については、設定した背景がわからないため、説明にあたっては定量的にした方がよいと思われる。
- 「10-1 企業・住民の流出等による地域活力の低下」の脆弱性評価に記載している3つの項目は、どれも脆弱性ではないと思われる。考え方を直した方がよいと思われる。
- A委員 : 事前に備えるべき目標の10、リスクシナリオ10-1については、東日本大震災を踏まえるとその通りと思われる。これに対し、現在記載されている脆弱性評価は、4～5番目に出てくるような内容ではないか。脆弱性評価以降の内容は、前後との関係性や直感的にイメージできないと思われる。
- 災害に強い地域とは何か？を考慮し、ここで記載すべきことをもう一度整理してほしい。近隣の民家同士による助け合いをするためにはコミュニティーを崩壊させないとか、ここでは南砺市オリジナルを盛り込むことになるため、被災後の目標や設定の背景をイメージできるようにすべきである。
- 委員長 : 事前に備えるべき目標の10については、シナリオに合う評価をしてもらい、表現等を改めてもらいたい。
- 手計委員の発言については、K P Iの指標とかは今後重要になっていくと思われることから、数値化を進めてほしい。ということと思われる。一般の方も、定性評価に定量的評価とした方がわかりやすいと思われる。
- E委員 : 説明資料②の青色のハッチは重点化項目とのことだが、いくつもある項目の中から、これらを選んだ理由を整理されているのか。
- 事務局 : 検討した数値は表にはありませんが、考え方としては説明資料②の5ページ目（5/16）右下にある5つの重点化の視点を指標とし、事務局案として、評価・提案している。
- E委員 : さきほどから出ているK P Iとか、現状の数値を整理するのは、南砺市だけの施策だけでないため難しいと思われるが、市民の皆様に説明するにあたり、何故この青色の項目を重点化したのか、その考え方を示しておくべきである。

- 委員長 : 重点化項目の設定した理由は市民の皆様が知りたいことと思われるので、重点化項目の設定の考え方を最初に説明しておいた方がよい。
- C委員 : 10番目の脆弱性評価は、人口の減少や活力の低下を指標化するなど、難しいわけではない。例えば、お祭りの数が減ったとか、運営人数の確保といったことを記載しても良いのではないか。
立山町のお祭りでは、学生がアルバイトに行っただけで成立するといった事例もある。
別冊資料②の74ページ目に小矢部川がないので追加してはどうか。
- 委員長 : 具体的な説明をいただいたので、事務局の方で検討してもらいたい。
- 事務局 : 承知した。
- 委員長 : 今後、お気づきの点が出てくると思いますが、このあとメールなり・FAXなりで、ご意見を送っていただきたい。

議事3 その他（説明資料3）

- 事務局 : 次回委員会は、令和3年1月14日（木曜日）の14時からでお願いしたい。ご意見等については、来週10月27日（火曜日）17時までにメールまたはFAXで頂きたい。
- 委員長 : 以上をもって議事は終了とする。

以上